

**近**年の大学入試の記述式英作文問題は、和文英訳から自由英作文に移行しつつありますが、どちらの形式にせよ、基本的な英文法の知識と語彙力・表現力が求められていることに変わりはありません。ところが、英作文を書くための文法に関する参考書はたくさんあるのに、語彙や表現に焦点を当てた受験生向けの本はほとんどありません。これがこの本を書いてみようと思ったきっかけです。

この本には以下のような特色があります。

### 1. 覚えたらそのまま使えるよう、句例の形で載せています

キーとなる語句を、なるべく入試で出た句例（または文例）の形で載せ、覚えたらそのまま使えるようにしました。また、同じことを言い表すのに複数の候補がある場合は、語彙がやさしく簡潔な表現を優先して選びました。さらに、日頃学生の答案を添削していて頻繁に見られるつづりや語法上の誤りも注記の形で取り入れました。英文は、日本語にも堪能な Christopher Barnard 先生にチェックしていただきましたので信頼度は抜群です。

### 2. トピック別なので自由英作文を書くのに便利です

語句がトピック別に分類され、関連表現がまとめて載っているので、検索しやすく、ある一つの話題で英文を書くのに便利です。また、「赤ちゃんポスト」「女性専用車両」「ネット上のいじめ」といった比較的最近使われるようになった語句の他、自由英作文で今後狙われそうなものは入試に未出の語彙も積極的に載せました。

### 3. 大学受験の最新データを元に語彙を選んでいきます

本書に載せるフレーズを選ぶにあたっては、2000年以降の大学入試（国公立・私立）の英作文問題（和文英訳・自由英作文）を分析し、実際に出題されたか、あるいは今後出題そうな語彙を中心に選びました。

英作文を苦手とする学生は非常に多いのですが、だからこそ努力した分だけ、必ず人と差がつけられる分野でもあります。本書が皆さんの表現力の向上のお役に立てば幸いです。

2009年夏

田上 芳彦

### ◆ 語句の探し方

- ① **トピックから探す!** ☞ 自分の探している語句と関連していそうなトピックを巻頭の「目次」で探して、そこに目を通してみましょう。
- ② **「さくいん」から探す!** ☞ 巻末には、本書に収録した主な語句を50音順に並べた「さくいん」があります。また、「さくいん」にない語句でも、例文中に登場する場合もありえますので、関連語句などを引いてみてください。

### ◆ 本書で使用している記号

- ( ) ☞ カッコの中の語句は省略可能  
(例) all day (long) は、all day long でも all day でも共に可
- [ ] ☞ カッコの中の語句は直前の語句と言い換え可能  
(例) a mild [warm] winter は、a mild winter でも a warm winter でも共に可
- ☞ 動詞の原形を表す  
(例) to — は to + 動詞の原形 (to 不定詞)、—ing は現在分詞や動名詞
- (米) (英) ☞ 本書はアメリカ英語を基準にしていますが、必要に応じて、このような記号をつけて、それぞれアメリカ英語、イギリス英語で主に使われる語彙を紹介しています。
- one's, oneself ☞ 英文中ではこのまま使わず、適切な形 (one's なら my, your など、oneself なら myself, yourself など) に置き換えて使う必要があります。
- ★ ☞ 誤りやすい語法、単語の意味や発音などを示しています。

### ◆ 本書に出て来る英文法用語

- 他動詞 ☞ 目的語が必要な動詞。
- 自動詞 ☞ 目的語が不要な動詞。
- 可算名詞 ☞ 文法的に「数えられる名詞」で、辞書では㊦の記号がついている。複数形にしたり、many や数詞で修飾できる。
- 不可算名詞 ☞ 文法的に「数えられない名詞」で、辞書では㊧の記号がついている。複数形の-sはつけられないし、many や数詞で修飾できない。